

埼玉県ワンナイトステイ事業(ホームステイ) 受入家庭のみなさまへ

令和6年度版



はじめに

「埼玉県ワンナイトステイ事業」にご関心をお寄せいただき、ありがとうございます。また、ご協力に感謝申し上げます。

この事業は、埼玉県、埼玉県国際交流協会および県内の市町村や国際交流協会等と、国際交流基金日本語国際センターの連携で実施しています。

みなさまのご家庭に受け入れていただくのは、日本語国際センターが行う研修に参加する「研修参加者」たちです。彼らは、それぞれの国の大学、中学・高校などの教育機関、語学学校などで日本語を教えている、外国人の日本語教師です。

言葉と文化は切り離せないものです。日本語を教えるなかで、日本の文化や社会を深く理解することはとても重要です。しかし、外国人である研修参加者にとって、それは簡単なことではありません。

ワンナイトステイ事業は、一般的な日本の家庭を体験することや、地域のみなさまとのふれあいを通して、研修参加者が「リアルな」日本を経験し、今後の教師としての活動に活かしていくことを目的としています。

短い期間ではありますが、このワンナイトステイ事業が、研修参加者にとってだけでなく、みなさまにとっても、かけがえのない出会いと経験になることを、願ってやみません。

埼玉県

埼玉県国際交流協会

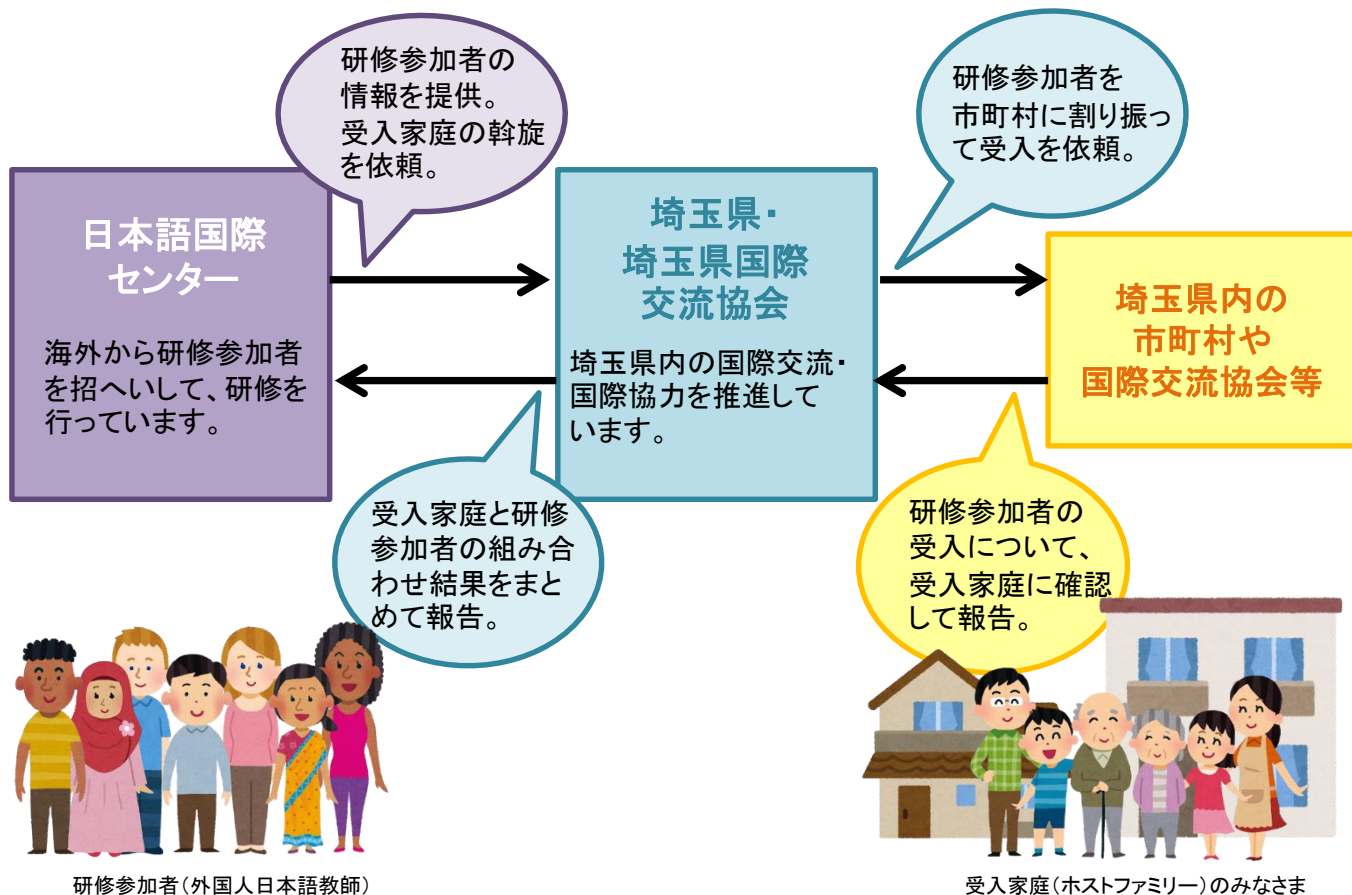
国際交流基金日本語国際センター

も く じ

1. ワンナイトステイ事業について	1
2. 受け入れの流れ	3
3. ご配慮いただきたいことについて	5
4. その他	8
5. 緊急連絡先	8
6. よくある質問	9
7. 参考	12

1. ワンナイトステイ事業について

この事業は、埼玉県・埼玉県国際交流協会および県内の市町村や国際交流協会等と、国際交流基金日本語国際センターがそれぞれ以下の役割を担って実施しています。



●どんな人を受け入れる？

日本語国際センターで研修を受けている「研修参加者」です。さまざまな国・地域の方がいますが、全員、外国人の日本語教師です。日本語国際センターで、日本語や日本語の教え方について、研修を受けています。

●ワンナイトステイの期間は？

1泊2日です（土曜日から日曜日まで）。

●どうすればホストファミリーになれる？

お住まいの自治体、または地域の国際交流協会などに問い合わせせて登録してください。



ホストファミリー募集（埼玉県国際課のホームページ）

<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0306/kouryukyoryoku/onenightstay.html>

●ホストファミリーになる条件は？

以下の4点をすべて満たすことが条件です。

1. 埼玉県内に住んでいる。
2. 単身ではなく、2名以上のご家庭※1である。
3. 個室と寝具※2、食事の提供をしていただける。
4. 食事や宗教の習慣などをご理解いただける。

※1 ワンナイトステイ当日もご家族みなさまで迎え入れてください。

※2 シーツ等は洗濯済みのものをご用意ください。

●受け入れの前に研修参加者の情報はわかる？

ホストファミリーとして登録した自治体または国際交流協会から、研修参加者の「自己紹介書」を受け取ります。

「自己紹介書」には、名前、出身国・地域などに加えて、訪日回数、食事に関すること、喫煙の有無・苦手な動物・乗り物酔いの有無などが書かれています。

受け入れのために知りたい情報があれば、日本語国際センターに照会することが可能です。

●当日はどんなことをすればいい？

特別なお客様扱いは、不要です。

普段どおりのご家庭の雰囲気でお迎えください。



2. 受け入れの流れ

随時



ホストファミリーとして登録する

- お住まいの市区町村の「ホストファミリー登録窓口」で登録してください。

ホストファミリー募集（埼玉県国際課のホームページ）

<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0306/kouryukyoryoku/onenightstay.html>

1か月～
2週間前



研修参加者とのマッチングをお待ちください。

- ホストファミリーの条件などを確認して、研修参加者をどのご家庭に受け入れていただくか、検討します。
- 受け入れていただくことが決定したら、研修参加者の情報（「自己紹介書」）をお渡しします。



ワンナイトステイ前のトラブルを避けるため、事前に研修参加者と直接連絡したり接触したりすることは、ご遠慮いただいています。

研修参加者に関する質問などは、日本語国際センターにお問い合わせください。

約1週間前



研修参加者にホストファミリーの情報を渡します。

- 登録の際にご提出いただいた「受入家庭登録申込書兼紹介書」を研修参加者に渡します。
- 研修参加者に、ワンナイトステイ中の注意事項などを説明します。

当日
(土曜日)
※午前中



対面会にお越しください。

- 日本語国際センターで、対面会（研修参加者との引き合わせ）を行います。
- そのあとは、ご家族と研修参加者とで自由にお過ごしください。
- 日本語国際センターの最寄り駅は、JR京浜東北線「北浦和」駅です。（西口より徒歩8分）
- お車でお越しいただくことも可能です。センター内管理室で「駐車許可証」を受け取り、駐車してください。

当日
(日曜日)



研修参加者とお過ごしください。

- 研修参加者との会話は、できるだけ日本語でお願いします。
- ホストファミリーの“生の”日本語にふれたり、実際の日本の生活を体験することで、日本の文化・習慣に親しむことができます。
- 遅くとも23時までに日本語国際センターに戻るよう、ご自宅や外出先の最寄り駅、または日本語国際センターまで付き添いをお願いします。（具体的な帰館時間は、研修参加者でご相談ください。）

過ごし方の例

※ステイ中に体験、訪問した場所等の事例は14ページをご覧ください。
なお、体験、訪問は必須ではありません。

土曜日

対面会
自己紹介など
研修参加者と帰宅
昼食
〈自宅で過ごす/外出する〉
夕食

日曜日

朝食
〈自宅で過ごす/外出する〉
昼食
〈自宅で過ごす/外出する〉
（場合によっては夕食）
研修参加者を最寄り駅まで送る

3. ご配慮いただきたいことについて

●外出時の費用（交通費、食費、入場料等）

研修参加者の分は、本人が支払います。国・地域によって物価水準が異なるため、場合によっては過度な負担となることもあります。できる限り、高額になりすぎないようにお願いします。

事前に、どれくらいの費用がかかるか、研修参加者に説明いただくと安心します。

参考までに、日本語国際センターの食費の基準では、1食あたり800～1,000円としています。一部の食費以外、原則として現金の支給は行っていません。

●生活の習慣など

日本の家にはじめて入る研修参加者も少なくありません。日常生活や習慣（食事のしかた、布団の上げ下ろし、風呂場やトイレの使い方等）について、必要に応じて具体的に教えてください。

また、イスラム教徒の研修参加者は、日に数回、お祈りの時間をとる場合があります。人によって個人差がありますので、日本語国際センターでは、お祈りの時間や回数については、本人から受入家庭のみなさまに説明するよう伝えていきます。なお、お祈りのために別にお部屋をご用意いただく必要はありません。

●喫煙・ペット他

研修参加者の「自己紹介書」に記載があります。ただし、許容度には個人差があります。



●食事について

研修参加者の「自己紹介書」に記載があります。受け入れの前にご確認ください。研修参加者が「ベジタリアン」「イスラム教徒」などである場合は、食事について以下の点にご注意、ご配慮をお願いします。

ベジタリアン(菜食主義者)の場合

×	<u>食べない・食べられないもの</u>	
	・肉、魚（エキスや出汁を含む） ・卵（人によってはOK） ・乳製品（人によってはOK）	
○	朝食	野菜のサンドイッチ、ごはん、みそ汁（昆布だし）、おもち、サラダ、くだもの など
	昼食 夕食	トマトソースのスパゲッティ（ベーコンなどは入っていないもの）、ガーリックトースト、ポテトフライ、野菜ピザ、山菜うどん（昆布だし）、温野菜、野菜の煮物（昆布だし）、豆腐、田楽、パンなど ※野菜のてんぷら（かつおだしのてんぷらではなく塩で）、野菜のフライなどは、卵が食べられない場合は× ※卵がOKの場合は、オムレツなども。

イスラム教徒の場合

×	<u>食べない・食べられないもの</u>	
	・豚肉（ハム、ベーコン、ラード、豚肉エキスを含む） ・アルコール（人によっては「みりん」を使った料理も×） ※人によっては、ハラール*以外の鶏肉や牛肉も遠慮する場合があります。 *ハラールとは、イスラム教の教えに基づいて処理された食材や料理のことをいいます。	
○	朝食	ごはん、おにぎり（たらこ・ツナなど）、みそ汁、目玉焼き、おもち、和菓子、くだもの など
	昼食 夕食	ごはん、漬物、スパゲッティ、ツナのサンドイッチ、おでん、煮魚、すし、てんぷら、オムレツ、鶏肉の唐揚げ、焼き鳥（ハラールでない鶏肉もOKの場合） など

その他の宗教や信条、食べ物アレルギーなどの理由から、食事制限を設けている場合もあります。「自己紹介書」の記載をご確認ください。

●さまざまな習慣について

文化や習慣のちがいがから、日本ではあまりなじみのない行動をとる研修参加者もいるかもしれません。

戸惑うこと、疑問に思うことがありましたら、お互いをよく理解するため、本人に事情をお聞きください。

過去の事例：

「・・・飲むのはお湯だけ?!」

食べ物アレルギーや宗教上の理由で食べられないものはありませんでしたが、お茶やコーヒーなどは一切飲まず、ずっと飲み物はお湯だけでした。身体の調子が悪いのかと心配になってたずねたところ、その研修参加者は「習慣として、カフェインを取らないようにしている」とのことでした。

イスラム教のお祈りに必要なもの

イスラム教徒の研修参加者を受け入れたときのことです。日に数回、お祈りをすることは知っていましたが、そのときに「水道はありますか」と言われてびっくり。理由を聞いたら、お祈りのときは手や足を清めるために水を使うそうです。家にいるときは、お風呂場を使ってもらいました。

食事マナーも所変われば・・・

家でいっしょにごはんを食べたとき、とてもおいしいと言ってくれました。でも、すべての料理を全部混ぜるようにして食べていたので、とても気になりました。思い切って聞いてみたら、国の習慣でそういった食べ方をするのが一般的なんだそうです。これがきっかけで、国によって異なる食事のマナーについて、話がはずみました。

4. その他

●保険

研修参加者は、日本滞在中の不慮の事故や病気に備えて、海外旅行保険（傷害、治療、賠償責任等）に加入しています。ご不明な点がありましたら、日本語国際センターにご連絡ください。

●個人情報や写真・動画の取り扱い

日本語国際センターでは、個人情報保護の観点より、研修参加者の連絡先をお伝えしたり、取次ぎをしたりすることはしていません。ワンナイトステイ事業のあとに研修参加者と連絡を取りたい場合は、ステイ中に研修参加者本人にその旨を伝えて連絡先を交換してください。また、研修参加者の写真・動画を撮影する場合、また、撮影した写真・動画や個人情報をSNS等に掲載する場合は、必ず研修参加者本人の許可を取ってください。

●謝礼

ワンナイトステイ事業は、みなさまの善意によって実施されているものですが、ご厚意に対する謝礼として対面会で日本語国際センターにお越しいただいた際に、1家庭につき5,000円をお渡ししています。受入の際のご家庭での準備等（食材購入、寝具のクリーニングなど）にご活用ください。

5. 緊急連絡先

受け入れ中に、対応が難しいトラブル（研修参加者の急病や事故など）が発生した場合は、下記までご連絡ください。

日本語国際センター 管理室（24時間対応）

TEL：048-834-1180

6. よくある質問

Q1 受け取った「自己紹介書」に質問があるのですが・・・

A1 直接、日本語国際センター・ワンナイトステイ事業担当者にお問い合わせください。
TEL：048-834-1182
※土・日・祝祭日のぞく9：30～17：30
Eメール：urawakenshu@jpf.go.jp
※メールの件名を「ワンナイトステイ（研修名）
問い合わせ」としてください。
参加者の来日前など、問い合わせのタイミングによってはお返事に時間をいただく場合があります。

Q2 やむをえない理由（病気など）により、受け入れをキャンセルしたいのですが・・・

A2 ホストファミリーとして登録した市町村にご連絡ください。
前日・当日のキャンセルは、日本語国際センター管理室までご連絡ください。
TEL：048-834-1180

Q3 家にあいている部屋がないので、子ども部屋やリビングに寝てもらってもいいですか。

A3 研修参加者は20代～50代の大人です。生活習慣の違いから戸惑うことも多いため、宿泊用の個室を提供できるご家庭に受け入れをお願いしています。

Q4 研修参加者におみやげをあげてもいいですか。

A4 おみやげは原則として遠慮させていただいていますが、思い出にどうしてもという場合は、高価なものは避けてください。

Q5 何語で話せばいいですか。

A5 できるだけ日本語でお願いします。場合に応じて、やさしい表現に言い換えたり、ゆっくりと話したりなど、工夫が必要になるかもしれませんが、日本語でのコミュニケーションをお互いに楽しんでいただければ幸いです。

Q6 受入の前に、研修参加者と直接連絡をとって、当日のスケジュールや当日行きたい場所、やりたいことなどを聞きたいのですが・・・。

A6 無用なトラブルを避けるため、事前に直接やり取りすることは、ご遠慮いただいています。当日、直接会ってから相談等をしてください。

Q7 研修参加者と外食や外出をする際、支払いはどうすればいいですか。

A7 研修参加者本人の分は、本人が支払います。国・地域、人によって、物価に対する感覚が異なりますので、外食や外出の際に、どのくらい費用がかかるか、事前に説明があると安心します。

Q8 研修参加者が帰国したあとも連絡をとっていたのですが、トラブルになってしまいました。どうすればいいですか。

A8 研修参加者帰国後のトラブルについては、日本語国際センターでは責任を負いかねます。

7. 参考

日本語国際センターの研修では、日本語や日本語の教え方に関する授業のほかに、「文化体験プログラム」として、以下のプログラムを実施しています。

※研修によって異なります。一部は希望選択制の場合があります。

埼玉見学（大宮 盆栽美術館見学、秩父 紙すき体験、川越 街歩き等）／東京見学（東京スカイツリー見学、浅草散策等）／茶道／華道／和太鼓／浴衣の着付／津軽三味線／小学校・中学校・高校訪問／地方研修（金沢、日光、関西）など



日本語国際センターでは、ワンナイトステイ実施の数日前に、「ホームステイ説明会」の時間を設けて、研修参加者に対して、以下のことを説明しています。

（詳細は次ページ）

- 受入家庭のみなさまは、ボランティアで受け入れてくださること。
- ワンナイトステイ中の外食、外出にかかる費用について、自分の分は自分で支払うこと。
- 宗教や習慣については、自分で説明すること。
- お風呂やお手洗いを使うときは、受入家庭の方に使用方法を確認すること。
- 「受入家庭紹介書」は日本語国際センターの外に持ち出さないこと。SNSやメール等で他人に共有しないこと。
- ワンナイトステイ中に受入家庭のみなさまと写真や動画を撮るときは許可を取ること。撮影した写真や動画をSNS等に載せる場合も、必ず事前に許可を取ること。



研修参加者への注意事項

1. 受入家庭(ホストファミリー)は、ボランティアの人たちです。ホテルや旅館ではありませんから、みなさんはお客様ではありません。特別なごちそうも、おもてなしもありません。ふつうの日本人のふつうの生活を体験しましょう。
2. 一つの家庭にひとりずつホームステイをする約束をしています。自分の友達やホームステイに参加しない他の研修参加者を一緒に連れて行ってはいけません。
3. ホストファミリーの人たちと話すときは、できるだけ日本語で話しましょう。
4. ホームステイの間、必要なお金は自分で払ってください。ただし、ホストファミリーの家で出された食事は、お金を払う必要はありません。
5. ホストファミリーは、みなさんが宗教の理由などで食べられないものの情報を持っています。でも、もしホストファミリーの家で食べられないものが出されたときは、その理由を話して「食べられないです」と言ってください。
6. ホストファミリーの家の電話は使わないでください。もし、電話をしなければならないときは、理由を話してお願いしてください。
7. お風呂やトイレの使い方は、家によってちがいます。また、生活のことで、わからないことがあったら、ホストファミリーに聞きましょう。
8. たばこを吸う人は、吸う前に、ホストファミリーに「たばこを吸ってもいいですか」と聞きましょう。
9. ホストファミリーと写真や動画を撮りたいとき、また、撮った写真や動画をSNSにアップしたい場合や、友達・自分の家族に送りたい場合は、必ずホストファミリーに「いいですか」と聞いてください。
10. ホームステイが終わってセンターに帰ったあと、ホストファミリーにお礼の手紙やメールを送ると、とても喜ばれます。
11. 受入家庭紹介書は、センターの外に持ち出さないでください。住所などの個人情報が書いてあるので、他の人に見せないでください。写真を撮って友達や家族に送ったり、SNSにアップすることも絶対にしないでください。
12. 感染対策に関するルールは、センターにいる時と同じです。(令和4年度実施時に追加)

受入家庭のみなさまからのコメント(事後アンケートより抜粋)

- 受け入れは初めてでしたが、私自身のホームステイの経験から「お互い無理をしない空間」で過ごせるようにプランを考えました。普段の生活リズム、普段食べているもの、普段行っている場所をみてもらいました。子供たちにとっても貴重な時間になったようです。
- 初めての受け入れでドキドキしましたが、素敵な笑顔でたくさん話してくれたのですぐに仲良くなれました。海外の方から聞く日本の話は驚くことも多く、改めて日本という国や文化について考えるきっかけになりました。とても楽しく、子供にとっても、遠い国の友達ができた貴重な経験でした。また受け入れたいです。
- 「日本の家庭に来て、映画を観ているみたい」という感想を聞いて、特別なおもてなしをしようと張り切る必要はないんだな、と感じました。今後の参加者にも等身大の日本家庭を楽しんでもらいたいです。

研修参加者からのコメント(事後アンケートより抜粋)

- 素敵な家族に出会えて幸せでした。一つだけの思い出を選ぶのは難しいです。でも、何よりも家でみんなで話したり、食事したりする時間が好きでした。日本の家族や生活を見るのも興味深かったです。
- とても優しくて、自分の家族みたいでした。外国にいると感じませんでした。お客さんとしてではなくて、家の娘みたいにしてくれて嬉しいです。
- 食べ物も大丈夫でした。いつも何が好きですか、この料理は大丈夫ですか、と聞いてくれました。
- 私の泊まった部屋はエアコンがなかった。暑くて心配いっぱいだった。
- 個人的な質問をたくさん聞かれて、答えたくないときはとても大変でした。
- 話すとき、ちょっと速くて分からないことがありました。勉強するのに頑張ります。

ホームステイ中の活動について(事後アンケートより抜粋)

●体験したこと

温泉、銭湯、工場見学、紙すき、茶道、合気道、ピクニック、キャンプ、SL乗車、子供のサッカー試合見学 など

●訪問した場所

- ・買い物（スーパー、ショッピングモール、商店街、本屋など） ・神社、寺、城
- ・博物館、美術館、資料館、図書館、文化センター ・レストラン（そば、うどん、ラーメン、回転寿司、お好み焼きなど） ・公園 ・お祭り
- ・川、林、山 ・動物園、水族館 ・プラネタリウム
- ・ホストファミリーの実家、親戚宅 など

※体験、外出する計画を立てていただくことは必須ではありません。
ご自宅、ご自宅周辺でのんびり過ごしたというケースも多くあります。

日本語国際センターへのアクセス

電車でお越しの場合：JR京浜東北線 北浦和駅西口より徒歩8分

お車でお越しの場合：国道17号線利用



国際交流基金日本語国際センター

〒330-0074

埼玉県さいたま市浦和区北浦和5-6-36

TEL: 048-834-1180

E-mail: urawakenshu@jpf.go.jp

<https://www.jpf.go.jp/j/urawa/>